

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

2019030

プロジェクト名 食を通じて本当の意味で豊かな世界を目指す

プロジェクトの概要

同じ地球上でも飢餓や学校に行けず苦しむ子どもたちがいる一方、食品ロスや環境問題も深刻化している現実を知り、自らが取り組む国際寄付活動の輪を広げ、世界に貢献したいという強い意志が生まれた。生物資源科学部と文理学部、日鶴料理部で活動内容周知のポスターやパンフレットを作成・配布。また、大学農場産の規格外野菜を使用したメニューを開発し、学祭や各学部の学食で販売。売り上げの一部は寄付し、食や学習支援に繋げることを目的とした。

プロジェクトの結果・成果

学内に活動周知の為のポスター掲示したことやパンフレット配布の影響で、学内の方はもちろん学外の方からも「面白いことやってるね、今度食べに行くよ」と興味を持って頂くことができた。以前から学食で TABLE FOR TWO の活動に沿った国際寄付活動を行っている Highers☆やコラボした Salamat “A”、鶴高料理部の活動への理解や認知度の向上、売り上げ増加にも繋がった。

学祭では Salamat “A” がフィリピンの子どもたちと交流が深いことから、大学農場産の規格外のサツマイモを使用し、生物資源科学部ではカモテキューというフィリピンのおやつを、文理学部では焼き芋を販売した。売り上げの一部は、助けが必要な子どもたち約 600 人への支援に充て、SDGs の 17 個の持続可能な開発目標のうち 10 個の目に関わる活動ができた。

プロジェクトメンバーにおいては、「ポスターを作成したり、このプロジェクトを共に進めていく中でコラボ相手の活動内容に多くの刺激を受け、かつ、自身の活動内容をより深く理解し、自信をもって話せるようになった」という声が多く出た。

各学部の学食での大学農場で採れた規格外野菜を使用したメニューの開発・販売の実施には、考えていた以上に様々な制限があり実現に時間がかかっているが、文理学部と国際関係学部には既に交渉を進めていて、来年度からは国際関係学部の TFT プログラムを行っている団体ともコラボして本プロジェクトを発展させていきたいと考えている。

最後に、私たちの活動はまだまだ不十分であるが、今回のプロジェクトには多くの方から高い評価を頂き、内容にも賛同して頂いたため、このプロジェクトに大きな将来性を感じた。また、「これからの世界は、私たちの手でより豊かにしていくのだ」という強い使命感を抱いた。

活動写真

